

第12回ケアラボ@きたかみ

主催：北上市・北上市包括支援センター主任介護支援専門員部会
北上市在宅医療介護連携支援センター

4月18日、市民交流プラザにて、第12回多職種事例検討会・ケアラボ@きたかみが開催されました。今回は11職種86名が参加しました。ケアラボのグランドルールについて説明後、事例提供者、北上済生会病院作業療法士 近藤理智生氏の事例をもとに「自動車運転が危険な方や運転再開が困難な方に関わったことがあるか？その時の問題（課題）に対してどのような仕組みがあったらよいと思うか」。また、「患者/利用者の環境が変わったときにそれぞれの職種でお互いに何を求めるか」についてのグループディスカッションを行いました。また北上市役所都市計画課高橋正貴氏より、公共交通に関する解説がありました。高次脳機能障害については、在宅きたかみの柴内一夫医師より説明がありました。見た目ではわからない方をどうサポートしていったらよいかお互いの事例についてたくさんの方の意見を聴き、サポート体制の必要性についても確認しておりました。



令和元年度第1回入退院支援作業部会

主催：北上市在宅医療介護連携支援センター

5月10日、北上済生会病院にて、令和元年度第1回入退院支援作業部会が開催されました。今年度の部会運営、「入退院支援のハンドブック」、平成30年度報告書・アクションプランの3事項について協議を行っています。今年度を通して、1)「入退院支援のハンドブック」の周知活動、研修会等を開催することにより、入退院支援における課題を明らかにし、対応策の提案を行う、2)「医療と介護の情報提供書（在宅情報）」の運用状況の確認を行う、3) いわて中部ネットの活用を通して、医療・介護・行政が共通で必要とする情報の検討を行う、という3つについて検討を行うことを確認しました。「入退院支援のハンドブック」の最終確認作業も進めています。以下、報告書・2019年度アクションプランより抜粋して列挙いたします。

対人支援を行う際に最も重要である本人の意向を汲んだ支援を行うには、それぞれの職能が当たり前のことを当たり前に行うことが重要。そのうえで、多くの職種が支援に関わり、その人らしい暮らしを最期まで送れるように支援をしていく連携のスキルアップと、「きたかみ型地域包括ケアのビジョン」を柱とする理念・目的の共有が必要。本人や家族の意向をくんだ、尊厳あるその人らしい暮らしを継続するための支援を実施すること。地域における生活をより効果的・効率的に支えていくことを目的とした「入退院支援のハンドブック」の作成。ハンドブックを活用した研修会について、部会メンバーを中心に医療介護双方の領域で複数回開催し、北上市における医療・ケアチームの業務の標準化と質の担保を目指す。



黒沢尻西地区心づもり勉強会

主催：社会福祉協議会・福祉協力員協議会黒沢尻西支部

5月23日、黒沢尻西地区交流センターにて、心づもり勉強会が行われました。参加者は28名でした。この勉強会は、民生委員・児童委員、福祉協力員、地区市民を対象に、広報記事を見た地区の市民からの要望により企画されました。岩手県立中部病院副院長兼地域医療科長兼地域医療福祉連携室長兼緩和医療科長の星野彰医師を講師に迎え、「わたしのきぼうノート」ができるまでの説明のあと、書きっこ会（グループに分かれて実際ノートに書いてもらう）を行い、その感想について話しあっていただきました。参加者からは、「まずはノートを知り、今後も継続して学習会などが行われるようにと考えて参加しました。」



「書きやすいが、話し合う・気づく・備えることの難しさを実感した。」「自分がどうしたいか伝えなければわからないことってたくさんある。」など、他にも多くの感想が寄せられました。また、参加した多くの方から、星野医師や在宅きたかみの柴内医師に質問や感想をいただきました。

北上地区ケアマネジャー連絡協議会研修会

主催：北上地区ケアマネジャー連絡協議会

5月24日、北上市総合福祉センターにおいて北上地区ケアマネジャー連絡協議会研修会が開催されました。岩手中部ネットについての説明の後、岩手県立中部病院副院長兼地域医療福祉連携室長兼緩和医療科長の星野彰医師が、地域で取り組む「人生のこころづもり」～幸せに歳を重ねるために～わたしのきぼうノート～心のつなぎ方～と題して講演されました。



1. 「アドバンス・ケア・プランニング」ってどんなこと
2. 地域で取り組む、人生の心づもり

～岩手県北上市の取り組み～について学習しました。

本人が望む医療やケアについて前もって考え繰り返し話し合うことにより、その時が来た時に一緒に話し合ったことがある人が、本人の考えに寄り添うことができるようになること、老いや病気で弱ったときの備え、もしもに備えることが大事であること、将来のことを話すときには、本人や家族が大切にしていることを尋ねて共感し、理解すること、そのうえで今後の身体や生活の変化に備えて将来の話を持ち出すこと、本人のデリケートなことに触れるので十分な気配りをするなどについて説明がありました。わたしのきぼうノートの活用について、長寿介護課主任保健師 住吉香奈子氏より、3月22日の広報きたかみ掲載後からの反響や市民の声などを説明していただきました。その後、どのような方を対象に希望ノートを使ってみたいか、また、ノートのページ「もしも生活の手助けが必要になったら」「老いや病気と共に暮らしていく」「わたしの想いを伝える」を中心にロールプレイを行いました。ノートがいろいろな年代で使っていけそう、北上の取り組みとして皆さんに考えてもらい話し合うきっかけづくりになる、また、40歳から介護保険を納める人や心づもりをしていない利用者さんにも、「広報でこういうのがあって」とお知らせできてご本人やご家族にお話しやすい、などの意見が聞かれました。

令和元年度第1回在宅医療介護連携推進協議会

北上市保健福祉部長寿介護課

6月12日、北上済生会病院にて、令和元年度第1回北上市在宅医療介護連携推進協議会が開催されました。入退院支援作業部会、平成30年度北上市在宅医療介護連携支援センター、認知症初期集中支援チームについての実績報告のあと、令和元年度北上市在宅医療介護連携推進事業計画及び「心づもり」事業について協議が行われました。

今年度の事業計画として、平成29年度までに取り組んだ地域資源把握及び課題抽出と、多職種ネットワーク形成を活かしながら、「多職種連携向上・市民意識醸成期」として、在宅チームケア体制の構築に向けて、具体的な課題解決と市民ニーズに配慮した意識啓発に取り組んでいくこと、医師会をはじめとする各職能団体との連携協力体制をさらに推進させ、具体的な課題解決に取り組んでいくこと、現行の制度や既存の社会資源では対応が困難な、複合的な課題を抱えた人を断らず継続的に支援していくことが可能な体制づくりを進めていくことが重点事業として示されました。

事業計画重点事業抜粋

- ・「認知症初期集中支援チーム」の体制充実と継続運用
- ・「入退院支援作業部会」において編集した「入退院支援のハンドブック」の関係者向け配布と研修会の開催
- ・「急変時の対応」において、救急の果たす役割が大きいことから、医師会及び消防本部との連携の仕組みを検討
- ・入所施設を対象とした看取りの実態調査実施と対策手法の検討
- ・「わたしのきぼうノート」を活用した、市民の心づもり支援と普及啓発
- ・在宅医療介護連携推進事業の評価 本事業の進捗状況、実施成果を測定する指標を設定し、評価の実施と事業の質を向上させるさせる仕組みの作成



第6回 幸せに歳を重ねるための心づもり勉強会

主催：北上市・北上市在宅医療介護連携支援センター

6月18日、北上市文化交流センターさくらホールにて、第6回幸せに歳を重ねるための心づもり勉強会が行われました。コーディネーターを岩手県立中部病院副院長 星野彰医師が務め、初参加の人でもわかる「心づもり勉強会」について説明がありました。続きまして、知っておくと役立つ話「相続・遺言の基本知識」としまして、日高法律事務所弁護士 日高拓郎氏から相続や遺言書に関するお話がありました。書面に残すことの大切さや、心づもりがあった方が良いということを強調されていました。会場からはたくさんの質問があり、関心の高さがうかがえました。最後に、わたしのきぼうノート活用事例の共有に取り組みました。

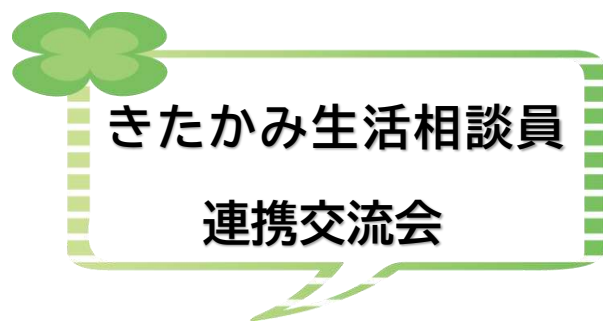


令和元年度 医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会 第1回 「明日から役立つ薬の知識」 — 医療 - 介護連携の事例をふまえて —



6月25日、北上済生会病院にて、令和元年度第1回医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会が開催されました。参加者は48名でした。北上市薬剤師会理事であるファースト調剤薬局の伊藤貴文氏を講師に迎え、「明日から役立つ薬の知識～医療・介護連携の事例をふまえて～」をテーマに、現場で役立つ薬の知識や薬剤師の仕事、薬のことで困ったときの相談先や連携方法、アセスメントシートの活用や薬剤師が訪問対応できることなど、事例を交えて、時おり笑いが起きる楽しいお話をさせていただきました。参加された介護職の方からは、「直接薬剤師の話が聞けるということで参加しました。」「明日からの実践に役立ちそうです。」とのご意見を頂きました。研修中、多くの参加者から薬に関する具体的な質問がありました。研修終了後にも困りごとの個別相談が続きました。

利用者の方々にとって相談しやすく、一人で抱え込まずに一緒に考えていく地域体制となりつつあることを実感させる研修会でした。



施設・相談員連携会は、諸事情を考慮して今年度から活動を終了することとなりました。これまでの2年間の活動は大変有意義で、自分たちの成長の糧となりました。相談員は様々な職種と関わりを持ち、利用者の方の困りごとを解決するため日々奮闘しております。自分たちを成長させたいという思いの伝わる研修・検討・ディスカッションを重ねることが出来ました。この活動にご協力を頂いた実行委員の方々への敬意とともに、ご参加頂いた皆様の更なるご活躍とご健勝をお祈りいたします。

☆ 編集後記 ☆

今年度の活動計画がホームページに掲載されております。各研修会へ参加することで、知らなかった情報がわかり、顔の見える関係が芽生えます。多職種が参加する研修であり、いろいろな考えや思いを知る場になります。そして多職種協働で学んでいく絶好の機会です。どうぞお誘い合わせの上ご参加ください。なお、在宅医療介護連携に関する研修の企画等はお気軽にご相談ください。

発行：北上市在宅医療介護連携支援センター

〒024-8506

北上市花園町1丁目6-8

(北上済生会病院管理棟2階)

TEL 0197-88-3011 FAX 0197-88-3012

HP <http://www.zaitaku-kitakami.com/>